

学校だより

1月号



『祖父の言葉』

校長 柴田 雅之

あけましておめでとうございます。令和8(2026)年が始まりました。今年は午年です。うまは、「躍動」「成功」「行動力」「運氣上昇」を象徴し、パワフルで情熱的な一年になるとされています。物事が「うまくいく」ということで、縁起が良い年でもあります。子どもたちにとって、保護者や地域の方々にとって、そして、世界中の人たちにとって明るく素晴らしい年になることを願っています。今年もよろしくお祈りします。

7日の朝、登校してくる子どもたちを迎えていると、昨年以上に「あけましておめでとうございます」「おはようございます」と自分から挨拶する子がたくさんいました。とっても嬉しい気持ちになりました。今年も挨拶や笑顔があふれる千代ヶ丘小学校でありたいと思います。

新年スタートの朝会では、今年は「令和8年」「西暦2026年」「午年」など、いろいろな言い方があることを話しました。日本独特なものもあれば、世界で広く通じるものもあります。干支は中国から伝わったもので、主にアジアの地域で使われています。この十二支の漢字を見せながら、それぞれの生き物の名前を言っていくと、子どもたちの中に、ふだん使っている漢字と違うことを不思議に思う子たちが出てきます。その通り。全部違います。「なぜだろう？」と疑問をもった子たちに、十二支の漢字はもともと時刻や方位を表していて、後から生き物を当てはめていったようだというのを伝えると「へえ、そうなんだ」という顔をしていました。低学年には少し難しかったかもしれません。千代ヶ丘小学校では、今年も子どもたちの知的好奇心を刺激するような教育活動を行っていきます。

子どもたちは、年末年始に楽しく充実した時間を過ごしたようで、落ち着いて学校生活にもどりました。そして、書き初めに取り組み、今年の抱負をそれぞれの言葉で表していました。6年生は4月から中学生になることもあり、『一步前進』『夜明けの空』など、4月から中学校生活に希望を膨らませていることが伝わる言葉が多いです。また、「一日一日を大切にしたい」「明るく元気に生活したい」という気持ちから、『今が大事』『笑いは良薬』など、より良い日常生活を望む言葉も多くありました。その中で『祖父の言葉』という字が私の目に留まりました。書いた子に、どうしてこの言葉にしたのかを聞いたところ、「おじいちゃんと話しているといろいろなことが勉強になるから」ということでした。「勉強」という言葉は少し硬いイメージがありますが、この子の言う「勉強」は何気ない学びということのように聞こえました。ある調査で「社会人になってからも自己研鑽・自己啓発を行わない人の割合」が日本は約52%で一番多かったということです。しかし、そんなことはないように思います。大人になってからもたくさんの学びをしていると思います。「勉強」とか「自己研鑽」とかいう固い言葉のイメージを、この子のように楽しく学ぶというイメージにしていきたいものです。学校での「勉強」も子どもたちにとって、小さな「学び」の積み重ねとして楽しんでほしいと思います。そして、一生学び続けることを楽しめる子を育てていきたいです。

最後に、今年度も残すところあと約2か月半。しっかりとまとめをして、年度末には1年の成長を実感できることを願っています。

※あつ、そうなの！「麻生区長寿日本一」(麻生区地域みまもり支援センターより)

新しい年が始まります。みんなの笑顔と元気が、まわりの人を幸せにします。新しいことにチャレンジすることも多いと思いますが、失敗しても大丈夫、そこから学べばもっと強くなれます。健康第一で、笑顔を忘れず、みんなで楽しい一年をつくりましょう！